

編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）
〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

第51号

大阪市史料調査会（編集）
大阪市立中央図書館内 TEL06-6539-3333

●西南戦争で亡くなった人のお墓

平成30年（2018）はNHKで「西郷どん」が放映され、これをきっかけに幕末・維新および明治10年（1877）の西南戦争に関する関心が高まっています。

西南戦争は、鹿児島県の私学校生徒らに擁された西郷隆盛が起こした戦争で、同年2月から9月に及ぶ、国を揺るがす大きな戦争でした。明治維新とそれにとמוなう様々な改革、特に身分制の廃止や廃刀令に不満を持ついわゆる不平士族の反乱の、最後にして最大の内乱でした。この西南戦争の時には大阪に参謀本部が置かれ、物資の調達や戦地への輸送など兵站基地として大きな役割を果たしました。それだけでなく、西南戦争に関連して亡くなった人たちの墓が大阪には残っています。

かつて陸軍関係で亡くなった人を埋葬する施設として、全国に90か所ほど陸軍墓地がありました。昭和20年（1945）の敗戦により、陸・海軍が廃止され陸軍墓地は、旧陸軍から大蔵省へ移管されました。大阪市内には、真田山に陸軍墓地がありました。この真田山の陸軍墓地は日本で最初に作られ、現在も終戦当時の規模を保っている歴史的にも価値のある存在です。この真田山墓地に西南戦争関係の墓が非常に多く残っています。実際に戦闘のあったのは、九州なので、九州には官軍墓地などが多数あるのですが、大阪にこれだけ関係者の墓があるのはなぜなのでしょう。

西南戦争の戦闘中に負傷した兵士は、九州内の病院などで手当を受けたりしますが、大阪には臨時陸軍病院が設置され、この病院に移送される場合も多かったのです。手当の甲斐なく亡くなる人もいて、その人たちは真田山墓地に葬られました。また、西南戦争が終結を迎え、長崎から船で多くの兵が神戸や大阪の港に帰還しました。ところがこのころ東南アジアで流行していたコレラが、長崎にも及び、多くの兵が感染してしまい、大阪への船中、あるいは上陸後収容された隔離病院などで亡くなった人が多くいました。このような病死者も葬られているのです。



旧真田山陸軍墓地（西南戦争関係者の多いゾーン）

それではどれだけの人の墓があるのでしょうか。この墓地を調査した国立歴史民俗博物館の調査報告では、凡そ5299基以上とされましたが、その後の調査で5100基以上であることがわかっています。そのうち、西南戦争関係は2002年の調査では923基あり、およそ五分の一です。923基のうち、387基にコレラで亡くなったと記されています。コレラの威力がすさまじかったことを表しています。当時、コレラ



西南戦争関係者等の墓石の被害状況

は大阪市中にも大流行し、大勢の人々が罹患し、亡くなった人も多数います。明治10年は西南戦争とコレラの年ということも出来るのです。

さて、この墓地の墓石は風化によって、表面が剥離し、刻された字が読めないものが多数あります。墓石には名前だけでなく、出身地や階級・経歴・死亡地・死因などが彫られているものも多く、歴史の証人としての役割を持っています。およそ140年の風雪に耐えて、墓石たちは戦争の悲惨さやコレラの恐ろしさを訴えているのです。

平成30年(2018)9月4日、台風21号が大阪を襲い、旧真田山陸軍墓地も大きな被害を受けました。墓地は木立に囲まれていたのですが、楠や桜等の巨木の幹が裂け、あるいは枝が引きちぎられ、墓石にかぶさったり、倒れたりしたのです。約100基ほどに何らかの被害がでています。もろい材質の和泉砂岩ですので、風化による劣化も進んでいます。これらの墓石は歴史を語る生き証人といえますので、なんとか長く保存出来るようにしたいものです。(堀田暁生)

●うどんと蕎麦—大坂と江戸—

お国自慢という訳ではなくても、故郷を遠く離れていると、ふるさとの味が懐かしくなるものです。それが食べなれたものであればなおさらのこと。

江戸出身で幕末に大坂西町奉行を勤めた久須美祐雫(在任期間:安政2~文久元年[1855~1861])は、大坂の蕎麦はいただけないと語っています。「大坂では蕎麦がまずい代わりにうどんが旨い。大坂の蕎麦はいけない。私は元来蕎麦好きだが、大坂ではうどんを食べることにしている(意識)」[注1]。

江戸人の久須美は、食べなれた江戸の蕎麦と違う大坂の蕎麦の味に戸惑ったのでしょう。「江戸人の口に合わないもの」として、わざわざ大坂の蕎麦を挙げています。

現在でも、西のうどん、東の蕎麦と言われるように、大坂では江戸時代から既にうどん人気優勢であったようです。江戸と大坂を比較した喜田川守貞も、京・大坂ではうどんが好まれ、うどんやが多い。そのうどんやでは、蕎麦も一緒に売っていたと『守貞謄稿』に記しています。それに対して江戸では蕎麦を好む人が多く、「蕎麦屋」の看板を掲げて、ついでにうどんも供しているという状況でした。つまり江戸と大坂ではメインが逆転しているわけです。

とはいえ、大坂で蕎麦が圧倒的不人気だったかと言うとそうでもありません。蕎麦を好む人もいました。幕末の大坂グルメガイド『花の下影』[注2]には、十一軒の麵類店が描かれており、そ



大阪蕎麦屋の行燈と店の張り札 『街能囃』(大阪市立中央図書館蔵)より

のうち砂場蕎麦や奴蕎麦など蕎麦屋が六軒も名を連ねているのです。大坂にも蕎麦屋は多く存在したのです。

その大坂の蕎麦屋に関して、次のような記述もあります。大坂には江戸のように蕎麦だけ売る蕎麦屋は少なく、「此地でハ蕎麦屋で料理を兼たり。茶漬を売たり。またハ餅を売たりしやす」〔注3〕というのです。他の料理も出すところが人気の秘密だったのかもしれませんが。

とはいえ、もともと大坂で育った大坂人の舌にとっては、ふるさとの味である大坂の蕎麦もまた好んで、久須美ほど大坂の蕎麦がまずいと思っていたわけではなかったようです。それを示す話も、久須美が江戸の留守宅にあてた手紙に綴っています。

大坂の蕎麦切はとても食べたものではないが、同役との世間話のついでに聞いた話によると、江戸から来た者が谷町で「東流庵」という江戸風の蕎麦屋を始めたらしい。大坂人はよくないと言っているようだが、江戸人にはまずまず好評だという。値は張ったが取り寄せて食べてみると、なかなかよいものだった（意識）〔注4〕。

江戸人の久須美にとっては馴染みのある「東流」の蕎麦も、大坂人の口には合わなかったようです。大坂には大坂人の慣れ親しんだ蕎麦の味があったのでしょう。

〔注1〕「在阪漫録（浪花の風）」（『随筆百花苑』第14巻、中央公論社、1981年）。〔注2〕岡本良一監修・朝日新聞阪神支局執筆『花の下影 幕末浪花のくいだおれ』（清文堂出版、1986年）。〔注3〕『街能噂』天保6年（1835）刊（『浪速叢書』第14、浪速叢書刊行会、1927年）。〔注4〕前掲〔注1〕の多治比郁夫による解題中の「難波のかり」（正しくは「後の難波の雁」）より。 （内海寧子）

◆ 新刊のご案内



『大阪の歴史』第87号

【主な内容】

- 井溪 明「藻井家旧宅の須賀蘭林齋筆になる金碧水墨山水図襖について」
内田 吉哉「大阪市史編纂所蔵の牧村史陽氏撮影写真について
—資料的価値の検討とデジタルアーカイブ化の手法—」
黒田 一充「【史料紹介】「土橋家文書」に記録された住吉祭の花笠の稚児」
古川 武志「【史料紹介】『大阪経済雑誌』にみる明治～大正期梅田風景」
本体 700円 送料 実費

刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（市立中央図書館3階市史編纂所内・電話 06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店：ジュンク堂書店（大阪本店・難波店）、旭屋書店（天王寺MIO店）、
紀伊國屋書店（梅田本店）※『大阪の歴史』のみ取扱い

★大阪市史編纂所では、ホームページを開設し市域の歴史に関する情報を発信しています。

● https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=871 または「大阪市史」で検索してください。

● 今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、催し物や刊行物を紹介する「おしらせ」、
「みんなの質問」では、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問と回答を掲載しています。
また、この「編纂所だより」のカラー版の閲覧とダウンロードも、上記ホームページより可能です。

絵はがきでみる昔の大阪 (29)

天神橋鉄橋 (1888 ~ 1934)

平成 30 年 (2018) の夏は、大阪北部地震・豪雨・台風 21 号の襲来と、自然災害に見舞われました。中でも台風 21 号は猛威を振るい、樹木がなぎ倒され、瓦が飛ぶなど大変な被害がありました。幸い第二室戸台風で高潮の大被害を受けたため、大阪市では防潮堤を高くするなどの対策を行っていたため高潮による被害はなかったようです。

さて、今回取り上げた絵葉書は天神橋鉄橋です。天神橋は浪華三大橋 (天神橋・天満橋・難波橋) の一つで、最も長い橋でした。明治 18 年 (1885)、6 月から 7 月にかけて大雨が降り続き、多くの川が満水状態となり、次々と堤防が決壊していきました。とりわけ淀川の決壊の影響は大きく、大阪市内の大小の橋はほとんど流失してしまいました。橋の多くが木造だったことにもよります。浪華三大橋も破壊され流失してしまい、大阪市内の交通路は寸断されてしまいました。

この時に大阪府知事であった^{たての}建野郷三は、主要な橋を鉄橋化することに着手しました。天神橋もこの時に鉄橋化されたのです (235m、当時日本で最長の道路橋)。煉瓦造の橋台の上に、ワーレントラス (三角形の細い鋼材を連続させるもの) 三連と、ボーストリングトラス (弧状の鋼材を垂直の柱で支えるもの) 二連が交互に組み合された美しい造形美を持つ橋が載っています。この二種のトラスはドイツ製でした。同じ時に架橋された、天満橋・肥後橋・渡邊橋・木津川橋も鉄橋でした。天神橋と天満橋はよく似た鉄橋でした。天満橋は、ワーレントラスが 4 連続く形式でした (216m、当時日本で二番目に長い道路橋)。この両橋は、車道の両側に 2.4m の歩道があるのも特徴で、歩道の外側の高欄は鉄製でしたが、この部分は橋銘板とともに国産が用いられました。建野知事は他



の主要な 13 の橋をも鉄橋にしたい考えを持っていましたが、予算が議会で通らなかったため、橋脚を鉄製にすることにしたということです。そのため浪華三大橋の内、天神橋・天満橋は鉄橋になりましたが、難波橋は鉄脚の橋になったのです。

現在の天神橋は、中之島公園の東端付近をまたいでいます。しかし、鉄橋になっ

たときには、中之島の東端は天神橋まで届いていませんでした。届くのは大正 10 年 (1921) 以後のことになります。したがってこの絵葉書はそれ以前の時期、明治中期から後期にかけて撮影されたものでしょう。天神橋は、昭和 9 年 (1934) に第一次都市計画事業にともなう松屋町筋の拡幅にあわせて、現在の橋になりました。橋の長さ 210.7m、幅は 22m あります。 (堀田暁生)

「編纂所だより」は 3 月と 9 月の年 2 回発行し、大阪市立各図書館のほか、各区役所、各区民センター、市役所市民情報プラザ、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムなどに置いています (数に限りがあります)。大阪市立中央図書館 (3 階大阪コーナー) 及び各区の図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。